

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2693300200		
法人名	特定非営利活動法人 ふくし京丹後		
事業所名	グループホーム長岡		
所在地	京都府京丹後市峰山町長岡3-3		
自己評価作成日	令和4年12月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	令和5年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域で子供からお年寄りまで集う憩いの場としての公園の前に立地し、ホールのテラスから眺める風景は生き生きと笑顔にあふれる人々であふれています。時にはその中の一員として公園を散歩したり、季節の花などに触れて頂いたりしております。生活歴を大事にし、孤独感の払拭を心がけ、尊厳を守る事をモットーに、やりがい・生きがいを見つけて頂ける共同生活を目指しています。毎日の生活の何事にも決定権を持って頂き、自立支援を職員一同心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

京都府北部の海沿いにある京丹後市の峰山町にある2ユニットのグループホームである。開設★★年になる。市が市民の運動や娯楽のために開設した運動公園の上部の山沿いにグループホームの平屋建てのつものがある。山との間は広々とした駐車場になっている。利用者の散歩や行事、運動、花や野菜作り等に活用している。職員は認知症である利用者との暮らしをできるだけ楽しいものにしたと心をくだしている。話が通じなくても身振り手振りを使い、利用者に笑顔が浮かぶと職員も喜んで一緒に大笑いする。こうして雪国の冬、そしてコロナ禍をのりきっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2693300200		
法人名	特定非営利活動法人 ふくし京丹後		
事業所名	グループホーム長岡		
所在地	京都府京丹後市峰山町長岡3-3		
自己評価作成日	令和4年12月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域で子供からお年寄りまで集う憩いの場としての公園の前に立地し、ホールのテラスから眺める風景は生き生きと笑顔にあふれる人々であふれています。時にはその中の一員として公園を散歩したり、季節の花などに触れて頂いたりしております。生活歴を大事にし、孤独感の払拭を心がけ、尊厳を守る事をモットーに、やりがい・生きがいを見つけて頂ける共同生活を目指しています。毎日の生活の何事にも決定権を持って頂き、自立支援を職員一同心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「絆ユニット」に同じ。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を全職員に徹底し、事業所理念との関連性を理解したうえで各ユニットごとにいつでも見れる様、理念の掲載を行っています。ユニットごとで夜勤者の日勤者への申し送りの際は理念の確認を行い業務に入るようにしております。	グループホームの理念は「一人ひとりが笑顔で過ごせる毎日」であり、8年前に職員が話し合って作成している。理念は利用者や家族に広報している。職員は理念の実践のために、勤務開始前に必ず理念を確認しあっている。またお互いに笑顔を絶やさず、利用者に対しても笑顔を忘れず、業務に励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で、区長や、民生委員、老人会会長、福祉委員の方々に意見や地区行事の情報を収集し、交流計画を立てている。(社会情勢により、地区行事は全て中止となった)前の公園に散歩に出掛ける事もあり、公園で出会った人とお話をしたり、テラスから、公園を眺めながらティータイムをしたりして、交流を行っています。又、施設から隣近所の掃除をする事もあります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学にお見えになった方や、運営推進委員の方々に認知症の方々の共同生活の様子や問題点などの情報提供をさせて頂き、認知症の実態をご理解いただく様啓蒙活動を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回現状報告としてご利用者の入居人数、介護度、出身地域、入退院の様子、事故、ヒヤリハット、苦情、イベント、研修内容などの報告を行い、意見交換の席でサービス向上につながるご意見を頂いています。	運営推進会議は京丹後市、長岡区区長、民生委員、長岡地区長寿会会長、福祉委員、利用者家族等が委員となり隔月に開催、議事録を残している。現在は会議ではなく書面で利用状況、活動、行事、事故・ヒヤリハット等の報告をまとめ書面で各委員に送り、委員からの意見を書面でもらっている。委員からは家族の面会についてや、外泊時の対策等の意見をもらい、検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	二ヶ月に一度開催せれる、市の事業所会議もコロナ禍でズームが主流で、ズーム会議で情報を収集している。	京丹後市には必要な報告をかかさず、連携を保っている。年2回開催の地域ケア会議に参加している。グループホーム連絡会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内の勉強会や外部の研修会などで、身体拘束にあたる事項を学び、禁止行為(言葉・薬物による拘束も含め)を行わない様徹底してます。緊急やむを得ない3要件を理解し夜間のベッド柵の使用やセンサーマットなどの使用時は、家族様に説明し、確認書を頂いている。	身体拘束をテーマに職員研修を年1回実施している。身体拘束の事例はない。センサーの使用はあるが家族の同意はとっていない。ホームから外部へ出る玄関ドア、非常口、ユニットのドア等は日中施錠していない。	身体拘束をテーマにした職員研修は年2回の実施が必要である。センサー使用に関しても家族との話し合いが必要である。以上、2点に関して改善が求められる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の種類や内容について聞き取りを行い、会議で日頃の行為が虐待に繋がっていないかなどを話し合ったり、新聞報道など具体的な事例を研究し、施設内研修で虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度の勉強会を行い相談があれば説明できるように施設内研修を行っております。これからご利用を検討されている家族さんもある為、それらを活用できるよう支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定にあたって担当会議の席で重要事項説明を中心とした理解、納得を頂く様疑問や質問に応じさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族様代表者に参加頂き意見を聞かせて頂いたり、家族様に手紙を書き担当者がご利用者の近況を伝えさせて頂いている。 又、面会時にも普段の様子を伝えるようにしている。	家族の面会は現在マスク着用、検温、消毒等の感染対策をしたうえで、パネル越30分以内としている。面会に来ない人もあるが、多い人は月に10回来る人もある。現在、家族会や行事への招待は中止にしている。家族には写真を多数掲載した広報誌と利用者別にホームでの利用者の様子を書いた「たより」を職員が書き写真を添えて送付している。家族の意見として「職員の異動は辛い」、「コロナ禍でもホームでは行事を楽しんでいる様子でうれしい」等の意見をもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー・サブリーダーが日頃の運営に対する意見を取りまとめ、職員会議で全職員の要望事項として事業運営に反映させている。	毎月の職員会議で利用者カンファレンス、業務の検討、行事の反省と企画、内部研修を実施している。会議で職員は積極的に意見を出している。休憩時間の確保等、業務の改善が進んでいる。内部研修は講師を交代して実施、外部研修は勤務扱いとなり、補助がある。感染、事故、イベント等の委員会があり職員が分担している。また利用者の担当をしている。職員が働きやすいと感じるのはコミュニケーションを大切にしていることである。他の法人のグループホームと交流や学びをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を中心とし、リーダー・サブリーダーが職員の勤務時間、勤務態度、努力、実績など把握し、代表者に報告している。結果を職場環境、条件整備に反映できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修、外部研修等への積極的な参加を呼びかけている。又、外部研修計画を事業所に提示し、希望する研修にも参加しやすいようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との情報交換は電話で行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期では出来るだけご本人との信頼関係を築くことを心掛け、ご本人の思いや要望を聴くことげ出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で家族様の要望事項を十分聞かせて頂く。その後サービス導入段階でホームとしてご家族の要望事項が実現できるようサービス計画を立て、変更や追加があれば充分説明させて頂く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントによって得られた情報分析から優先順位をつけご本人や家族様に提案します。必要なサービスがなんであるか納得頂く様説明し、より良いサービスがあれば他のサービス利用も対応していくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される立場は時として管理される立場に陥りやすい為、それを防ぐためにはご利用者と職員は対等の関係から、よりご利用者に寄り添う関係を築いていくよう努めている。決定権はご利用者にあり、自己決定を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が家族様に面会を希望されたら、孤独感を持たれない様家族様にホームに面会に来て頂いたり、電話で話を聞いてもらったり、などの協力をお願いしている。一時帰宅を希望された場合はご家族様の協力を頂き帰宅して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	社会情勢により、訪問される方も少なくなっているが、電話をしたり、手紙のやり取りや贈り物が届く事がある。 家族や知人と相談室で食事をされる事もある。	利用者はかつての友人等と自分が持っている携帯電話で話している。また年に1, 2回面会に来る友人がいる。利用者が「住んでいた家を見に行きたい」と希望した時は、職員か家族が同行して、介護タクシーを利用して出かける。また、ドライブの際に家の近くへよることもある。	利用者は長い人生を過ごしてきて、今最後の日々をグループホームで暮らしている。子どものころ仲良くしていた友達、一緒に頑張った仕事仲間等にしばらく会っていないが元気かな、どうしているかな等、今はコロナ禍なのでよけい気になる。せめて電話か手紙等で連絡をとりたい。 こうした希望に支援をすることが求められる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方は隣同士になって頂いたり、ご利用者同士が声掛けし、自発的にゲームをしたり合唱して頂いたりしている。日中は居室にこもらない様ご利用者が一緒になって出来る事を提供出来る様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後、転入先を訪問した時は、その後の様子を訪ねている。家族様から相談があればお話を伺っている。退所後の入所先からご本人のかつての様子の問い合わせがあればお答えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で、ご本人の生活への意向や希望、家族が面会に訪れた時には、家族の希望を出来るだけ聞かせて頂く様務め、あればその都度連絡ノートに気づきとして書き込み、ケア会議を通して職員間で情報の共有に努めている。私の姿と気持ちシートの書き込みを担当以外の職員と共有している。	契約時には管理者、ケアマネ、職員が利用者や家族と面談し、グループホームの説明をすると共に利用者の介護や医療と生活歴の情報を収集している。またグループホームでの暮らしについて、利用者、家族の意向を聴取している。生活歴は、父は漁師、大工、麵づくり、4人兄弟、8人兄弟等生家のこと、現役の時は美容師、大工、漁師等、夫は会社員、機織り、子どもは2人、3人等の結婚生活のこと、趣味はバレーボール、和裁、生け花、水泳、踊り等を記録しており、職員が共有している。	グループホームでの利用者を介護し、共に生活していくためには、利用者を深く理解することが必要である。出身地や生家の状況は人間の好き嫌いや性格を形成する大きな要因となる。出身地の情報が必要である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	私の気持ちシートと合わせ、私の暮らしシートを活用し、利用者さんの談話の中から、これまでの暮らしの様子を記入し、職員間で共有するように努めている。	/		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の様子はケース記録に記入し、様子の変化を、職員同士で情報を共有している。出来る事は自分でやって頂いている。出来る事を増やしていくよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画、モニタリング、各担当職員が、サービス計画作成担当者と相談しながら計画書を作成しケアマネージャーが確認し、ケア会議を通してユニット職員が把握出来るようにしている。	利用者が入居後、ケアマネと担当の職員がアセスメントし、介護計画を作成している。介護計画には利用者、家族、職員、かかりつけ医、看護師等の意見を反映している。介護計画は身体介護、暮らしの楽しみが入っているが、認知症不穏時の対応は入っていない。介護計画の実施記録は職員が書いている。実施した事と共にその時の利用者の表情や発言を書きモニタリングの根拠になっている。モニタリングは担当職員が毎月介護計画の評価をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケース記録やサービス項目に日々の様子やケアの実践結果を記録している。夜勤者が日勤者に夜間の様子を引継ぎ、24時間の情報を共有している。ご本人が発せられた言葉や思いなど記入している。モニタリングの結果次第で、計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	社会情勢により、大人数での行動や蜜になる事は出来るだけ避けるようにし、少人数で外出したり、家族様と出かけたりしている。職員体制が許す限り個別対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	目の前にある運動公園で行われるイベントを観戦したり、公園を散歩をする時地域の方と触れ合う機会がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則かかりつけ医の受診はご家族の付き添いをお願いし、受診の時はホームでの様子を情報提供させて頂いている。家族様の受診付き添いが難しい場合、協力医による往診を月1回お願いしている。かかりつけ医が往診に来られる場合もある。	入居前からの利用者のかかりつけの医師や病院への受診は主に家族が同行、職員も同行している。利用者の状況や体調は文書にまとめたり、職員が口頭で医師に伝えている。歯科や認知症の受診も同様である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内研修で介護職が出来る医療行為について学習している。医療行為が必要な場合は同じ法人内の他の施設の看護師に相談し、摘便などの医療行為が必要な場合は応援に来てもらっている。月一回の往診時には事前に協力医の看護師さんにご利用者の様子を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院に入院までの様子、既往歴や服薬中の処方箋などの情報提供を行っている。一ヶ月をめぐりに退院して頂ける様病院関係者をお願いするなど退院につなげる様働きかけ、利用復帰に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですること十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は看取り体制は整えられていないが、入所時にはご本人。家族様に重度化、終末期に向けた方針を説明している。施設で出来る支援を、ご本人や家族様に説明し安心して頂けるようにしている。	利用者の重度化や終末期に関するグループホームの方針を契約時に利用者と家族に説明し意向を聴取している。利用者の意向は、「ホームでお願いしたい」である。家族は延命治療をされたくない等の意向が多い。ホームで「看取り」に対応する体制はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内でマニュアルを作成しておりいつでも手順が確認できるよう各ユニットごとに保管している。運営推進会議で協力依頼したり消防署から緊急救命の方法など教わっている。緊急連絡方法や救急車が到着するまでに準備することなど職員会議で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練ではご利用者の安全を第一に考え、避難介助の方法を一人一人検討し、自力で避難できる方以外は優先順位をつけ全員が避難できるよう計画している。他の災害でも同様、慌てず避難の原則を守り安全に地域の公民館まで避難するよう訓練している。ハザードマップをGH相談室に掲示し職員が把握出来るようにしている。	火災、地震、台風、夜間帯等の避難訓練を実施している。食料、ふとん、懐中電灯、ポータブルトイレ、電池、発電機、ペーパータオル、カイロ、マスク、利用者が使用中の薬、ティッシュペーパー等を備蓄している。地域の人に災害時に協力してもらえるように依頼している。災害時に法人内相互協力体制の規定はない。	災害時には法人内が相互協力することをあらかじめ定めておくこと共に、その訓練を実施することが求められる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳の順守はホームの理念であり、ご利用者と接する基本であることを常に意識する心がけています。生活歴に寄り添い、知り得た情報を必要以上に口外したり誇りを傷つける様な言動は慎むようにしています。	利用者への対応や言葉遣いについてのホームとしての方針は、「丁寧に対応、丁寧語を使う」であり、職員研修をしている。「ちょっと待って」や命令口調は禁止している。職員会議や職員同士の申し送り等は利用者のいない場所で行い、利用者に配慮している。暮らしでは細かい事でも利用者の自己選択を大事にしており、外出時にお化粧する利用者がある。飲み物を選んでもらうためにお茶、コーヒー、スポーツドリンク、ジュース、ヨーグルト等を準備している。髪型は訪問美容を利用しており、利用者が自分の好みを注文している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の重要性を日頃から職員が理解し、日頃の会話の中で「はい」や「いいえ」で終わるような質問は避け、自己決定できるような質問を心がけている。出来るだけご本人の思いや希望を聞き出せる様会話に気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴時間をご利用者のペースに合わせている。食事に時間がかかる方はゆっくりと自分のペースで食べて頂いている。ご利用者の気持ちを優先し強要はしていません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時更衣の衣類をどれにするか伺ったり、季節を考え最適な衣装を提案したりしている。マネキュアや化粧のお手伝いをしている。ヘアカットはご家族がなじみの店に連れていかれたり、協力いただけるパーマやさんをお願いして来ていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が何でもしてしまうのではなく、出来る方には会話しながら調理補助や盛り付け等手伝って頂いている。自分の役割として食器洗いや鍋拭きなども楽しんでやっ頂いている。食事前には献立の説明を行っている。又、誕生日など、食べたい料理があれば、皆で調理している。	利用者の食事は日常も行事の時も利用者の希望を聞きながら、職員が献立を立て調理している。季節感がある丹後寿司等に地域の食文化を踏まえている。食材は近くのスーパーで購入している。職員と利用者が協力して食事作りしている。ときには出前を取ることもある。現在は外食はしていない。仲良しの利用者同士が同じ食卓を囲んだり天気の良い日はテラスに食卓を出すこともある。利用者は野菜の下ごしらえ、巻きずしを巻く、焼きそばを作る、みんなで鍋を囲む等できることをして食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や形状、栄養バランスを考え、既往歴での注意事項を確認し個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや働きかけを行い口腔ケアを行っている。出来る方はご自分で自ら、出来ない方は声掛け誘導を行っている。特に夕食後は睡眠時誤嚥性肺炎予防の為、念入りに歯磨きをして頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便チェック表で失禁の多い方は定期的にトイレ誘導を行っている。ご本人が希望される以外はおむつの使用はしていない。パットなどの使用時はご家族と相談し、了解を得てその方にあつた物を使用させて頂いている。	少数の利用者は尿意があり、トイレの場所を知っていて自身で処理できる、という排泄の自立をしている。ほとんどの利用者は職員の声掛けでトイレを利用している。日中もおむつ使用の利用者はいない。入居してから排泄が改善した利用者がある。自然排便の支援として、バナナ、オリーブオイル等の食材を使用、運動の推進をしているが、多くの利用者は下剤を服用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	施設内研修で便秘の原因や腸の働きなど知識を学習し、排便表によりチェックを行っている。薬だけに頼らず、繊維質の多い食品やヨーグルト、牛乳などの摂取、運動によって便秘予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望を確認し、湯の量や湯加減を尋ねるなど気配りをしている。しょうぶ、ゆず湯など季節を感じて頂く風呂にも入って頂いている。湯船につかりながら世間話をしたり、くつろいで頂く様心がけている。	利用者の入浴は毎週2回を支援している。3回入る人もいる。入りたい日、湯の温度、湯に浸かっている時間等は利用者の希望に添っている。入浴拒否の利用者にはいろいろ工夫して6日目には入れるようになっている。自分のシャンプーを持っている利用者がある。季節には柚子湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣で夜遅くまで起きておられる方は、居眠りせず、日中は出来るだけホールで起きて過ごして頂いている。食後しばらく居室で休んで頂いたり、ご自分に合った就寝時間に安眠して頂く様、寝具や居室の温度調整、換気に気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に処方箋と一緒に管理している。受診、往診記録を付け、薬の変更があれば、連絡ノートに記入し申し送りをして職員全員が分かるようにしている。服薬チェック表にて服薬済の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の手伝い(盛り付け、野菜切り、配膳など)を出来る方をお願いしている。洗濯物干し、たたみなど役割としてやって頂いている。下膳や食器洗いの手伝いをお願いしている。パズル、などご自分の趣味としてやっておられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、外出機会は少なく、ドライブに出かけても車外へ出る事はすくなくなった。テラスでティータイム等をする機会を多く持つようにしている。	気候が良く、天気が好ければ利用者はホーム前の公園やドライブ先の公園で散歩している。いずれも自然が豊かで四季を楽しめる場所である。また、花見、海辺、公園等に、年7~8回はドライブに出かけている。利用者が行きたい所の希望を言った時は職員が同行している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様から預かったお金は紛失がない様事務所で金庫に保管させて頂いている。希望があればいつでもご本人にお返している。買い物に出かけられる場合はその都度お渡ししている。 自己管理をされる方は、ご自分で管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	独居の方は住所をホームに移して頂き、郵便物が届くようにしている。電話は事務所やホールの子機から取り付いたり、かけて頂いている。手紙やはがきを書かれる方は準備をし、郵便局に持参している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節感が感じられるかざり付けを行っている。(クリスマス、正月飾りなど)。玄関には季節の花を飾ったり、雛飾りなどを飾っている。室内の温度調整や外気の騒音などないよう気を付けている。	利用者の居間兼食堂であるホールには、食卓、椅子、ソファ、作業台、テレビ、DVDプレーヤー、カセット、新聞、雑誌を入れたラック、観葉植物の鉢、メダカの水槽等があり、ゆったりと広く落ち着く空間となっている。壁には行事の写真、塗り絵、職員と利用者で合作した季節の飾りを貼っている。ホームの外でさつまいも、ゴーヤ、ミニトマト等の野菜やチューリップ、コスモス等の花を育てている。玄関前にはシクラメン、あやめ、ローズマリー等が咲いている。ホームのうしろの山には季節ごとに、つつじ、ローズマリー、シクラメンの花が咲いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブル席は仲の良い方どうしが隣同士になるよう席を決めさせて頂いている。テラスから公園の風景が眺められる様、ソファを置きいつでも座って頂き、外の景色がよく見える様に設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時その方の愛用品などご本人や家族さんと相談して、持ち込んで頂いている。各部屋にカレンダーを貼り、毎日の日付けが確認ができるようにしている。入り口には名前と似顔絵を貼らせて頂いている。	利用者の居室は洋間だが、希望する人には畳を敷いている。ホームがエアコン、机、椅子、筆筒、ベッドを備えている。利用者は椅子、マット、仏壇、衣装ケース、寝具、衣類、文具、アルバム、テレビ、和裁道具、編み物道具、愛読書、時計、写真、カメラ、化粧品、シャンプー、リンス等を持ち込み、自分の部屋にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	習字用のテーブルを準備させて頂いている。卓球の好きな方には卓球台を用意させて頂いている。歌が好きな方にはカラオケで唄って頂いている。パズルの好きな方にはパズルを準備したり、読書の好きな方には本を準備したりしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を全職員に徹底し、事業所理念との関連性を理解したうえで各ユニットごとにいつでも見れる様、理念の掲載を行っています。ユニットごとで夜勤者の日勤者への申し送りの際は理念の確認を行い業務に入るようにしております。	以下の項目すべて「絆ユニット」に同じ。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で、区長や、民生委員、老人会会長、福祉委員の方々に意見や地区行事の情報を収集し、交流計画を立てている。(社会情勢により、地区行事は全て中止となった)前の公園に散歩に出掛ける事もあり、公園で出会った人とお話をしたり、テラスから、公園を眺めながらティータイムをしたりして、交流を行っています。又、施設から隣近所の掃除をする事もあります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学にお見えになった方や、運営推進委員の方々に認知症の方々の共同生活の様子や問題点などの情報提供をさせて頂き、認知症の実態をご理解いただく様啓蒙活動を行っています。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回現状報告としてご利用者の入居人数、介護度、出身地域、入退院の様子、事故、ヒヤリハット、苦情、イベント、研修内容などの報告を行い、意見交換の席でサービス向上につながるご意見を頂いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	二ヶ月に一度開催せれる、市の事業所会議もコロナ禍でズームが主流で、ズーム会議で情報を収集している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践	施設内の勉強会や外部の研修会などで、身		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		<p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>体拘束にあたる事項を学び、禁止行為（言葉・薬物による拘束も含め）を行わない様徹底してます。緊急やむを得ない3要件を理解し夜間のベッド柵の使用やセンサーマットなどの使用時は、家族様に説明し、確認書を頂いている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の種類や内容について聞き取りを行い、会議で日頃の行為が虐待に繋がっていないかなどを話し合ったり、新聞報道など具体的な事例を研究し、施設内研修で虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度の勉強会を行い相談があれば説明できるように施設内研修を行っております。これからご利用を検討されている家族さんもある為、それらを活用できるよう支援しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定にあたって担当者会議の席で重要事項説明を中心とした理解、納得を頂く様疑問や質問に応じさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族様代表者に参加頂き意見を聞かせて頂いたり、家族様に手紙を書き担当者がご利用者の近況を伝えさせて頂いている。 又、面会時にも普段の様子を伝えるようにしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー・サブリーダーが日頃の運営に対する意見を取りまとめ、職員会議で全職員の要望事項として事業運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を中心とし、リーダー・サブリーダーが職員の勤務時間、勤務態度、努力、実績など把握し、代表者に報告している。結果を職場環境、条件整備に反映できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修、外部研修等への積極的な参加を呼びかけている。又、外部研修計画を事業所に提示し、希望する研修にも参加しやすいようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との情報交換は電話で行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期では出来るだけご本人との信頼関係を築くことを心掛け、ご本人の思いや要望を聴くことげ出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で家族様の要望事項を十分聞かせて頂く。その後サービス導入段階でホームとしてご家族の要望事項が実現できるようサービス計画を立て、変更や追加があれば充分説明させて頂く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントによって得られた情報分析から優先順位をつけご本人や家族様に提案します。必要なサービスがなんであるか納得頂く様説明し、より良いサービスがあれば他のサービス利用も対応していくよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される立場は時として管理される立場に陥りやすい為、それを防ぐためにはご利用者と職員は対等の関係からよりご利用者に寄り添う関係を築いていくよう努めている。決定権はご利用者にあり、自己決定を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が家族様に面会を希望されたら、孤独感を持たれない様家族様にホームに面会に来て頂いたり、電話で話を聞いてもらったり、などの協力をお願いしている。一時帰宅を希望された場合はご家族様の協力を頂き帰宅して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	社会情勢により、訪問される方も少なくなっているが、電話をしたり、手紙のやり取りや贈り物が届く事がある。 家族や知人と相談室で食事をされる事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方は隣同士になって頂いたり、ご利用者同士が声掛けし、自発的にゲームをしたり合唱して頂いたりしている。日中は居室にこもらない様ご利用者が一緒になって出来る事を提供出来る様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後、転入先を訪問した時は、その後の様子を訪ねている。家族様から相談があればお話を伺っている。退所後の入所先からご本人のかつての様子の問い合わせがあればお答えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で、ご本人の生活への意向や希望、家族が面会に訪れた時には、家族の希望を出来るだけ聞かせて頂く様務め、あればその都度連絡ノートに気づきとして書き込み、ケア会議を通して職員間で情報の共有に努めている。私の姿と気持ちシートの書き込みを担当以外の職員と共有している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	私の気持ちシートと合わせ、私の暮らしシートを活用し、利用者さんの談話の中から、これまでの暮らしの様子を記入し、職員間で共有するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の様子はケース記録に記入し、様子の変化を、職員同士で情報を共有している。出来る事は自分でやって頂いている。出来る事を増やしていくよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画、モニタリング、各担当職員が、サービス計画作成担当者と相談しながら計画書を作成しケアマネージャーが確認し、ケア会議を通してユニット職員が把握出来るようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映	毎日ケース記録やサービス項目に日々の		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様子やケアの実践結果を記録している。夜勤者が日勤者に夜間の様子を引継ぎ、24時間の情報を共有している。ご本人が発せられた言葉や思いなど記入している。モニタリングの結果次第で、計画の見直しを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	社会情勢により、大人数での行動や蜜になる事は出来るだけ避けるようにし、少人数で外出したり、家族様と出かけたりしている。職員体制が許す限り個別対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	目の前にある運動公園で行われるイベントを観戦したり、公園を散歩をする時地域の方と触れ合う機会がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則かかりつけ医の受診はご家族の付き添いをお願いし、受診の時はホームでの様子を情報提供させて頂いている。家族様の受診付き添いが難しい場合、協力医による往診を月1回お願いしている。かかりつけ医が往診に来られる場合もある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内研修で介護職が出来る医療行為について学習している。医療行為が必要な場合は同じ法人内の他の施設の看護師に相談し、摘便などの医療行為が必要な場合は応援に来てもらっている。月一回の往診時には事前に協力医の看護師さんにご利用者の様子を伝える。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院に入院までの様子、既往歴や服薬中の処方箋などの情報提供を行っている。一ヶ月をめぐりに退院して頂ける様病院関係者をお願いするなど退院につなげる様働きかけ、利用復帰に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は看取り体制は整えられていないが、入所時にはご本人。家族様に重度化、終末期に向けた方針を説明している。施設で出来る支援を、ご本人や家族様に説明し安心して頂けるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え	施設内でマニュアルを作成しておりいつでも		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	手順が確認できるよう各ユニットごとに保管している。運営推進会議で協力依頼したり消防署から緊急救命の方法など教わっている。緊急連絡方法や救急車が到着するまでに準備することなど職員会議で共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練ではご利用者の安全を第一に考え、避難介助の方法を一人一人検討し、自力で避難できる方以外は優先順位をつけ全員が避難できるよう計画している。他の災害でも同様、慌てず避難の原則を守り安全に地域の公民館まで避難するよう訓練している。 ハザードマップをGH相談室に掲示し職員が把握出来るようにしている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳の順守はホームの理念であり、ご利用者と接する基本であることを常に意識する様心がけています。生活歴に寄り添い、知り得た情報を必要以上に口外したり誇りを傷つける様な言動は慎むようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の重要性を日頃から職員が理解し、日頃の会話の中で「はい」や「いいえ」で終わるような質問は避け、自己決定できるような質問を心がけている。出来るだけご本人の思いや希望を聞き出せる様会話に気を付けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴時間をご利用者のペースに合わせている。食事に時間がかかる方はゆっくりと自分のペースで食べて頂いている。ご利用者の気持ちを優先し強要はしていません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時更衣の衣類をどれにするか伺ったり、季節を考え最適な衣装を提案したりしている。マネキュアや化粧品のお手伝いをしている。ヘアカットはご家族がなじみの店に連れていかれたり、協力いただけるパーマやさんをお願いして来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が何でもしてしまうのではなく、出来る方には会話しながら調理補助や盛り付け等手伝って頂いている。自分の役割として食器洗いや鍋拭きなども楽しんでやって頂いている。食事前には献立の説明を行っている。又、誕生日など、食べたい料理があれば、皆で調理している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や形状、栄養バランスを考え、既		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	往歴での注意事項を確認し個別に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや働きかけを行い口腔ケアを行っている。出来る方はご自分で自ら、出来ない方は声掛け誘導を行っている。特に夕食後は睡眠時誤嚥性肺炎予防の為、念入りに歯磨きをして頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便チェック表で失禁の多い方は定期的にトイレ誘導を行っている。ご本人が希望される以外はおむつの使用はしていない。パットなどの使用時はご家族と相談し、了解を得てその方にあつた物を使用させて頂いている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	施設内研修で便秘の原因や腸の働きなど知識を学習し、排便表によりチェックを行っている。薬だけに頼らず、繊維質の多い食品やヨーグルト、牛乳などの摂取、運動によって便秘予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	ご利用者の希望を確認し、湯の量や湯加減を尋ねるなど気配りをしている。しょうぶ、ゆず湯など季節を感じて頂く風呂にも入って頂いている。湯船につかりながら世間話をしたり、くつろいで頂く様心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣で夜遅くまで起きておられる方は、居眠りせず、日中は出来るだけホールで起きて過ごして頂いている。食後しばらく居室で休んで頂いたり、ご自分に合った就寝時間に安眠して頂く様、寝具や居室の温度調整、換気に気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に処方箋と一緒に管理している。受診、往診記録を付け、薬の変更があれば、連絡ノートに記入し申し送りをして職員全員が分かるようにしている。服薬チェック表にて服薬済の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の手伝い(盛り付け、野菜切り、配膳など)を出来る方をお願いしている。洗濯物干し、たたみなど役割としてやって頂いている。下膳や食器洗いの手伝いをお願いしている。パズル、などご自分の趣味としてやっておられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、外出機会は少なく、ドライブに出かけても車外へ出る事はなくなった。テラスでティータイム等をする機会を多く持つようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様から預かったお金は紛失がない様事務所で金庫に保管させて頂いている。希望があればいつでもご本人にお返ししている。買い物に出かけられる場合はその都度お渡ししている。 自己管理をされる方は、ご自分で管理されて		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	独居の方は住所をホームに移して頂き、郵便物が届くようにしている。電話は事務所やホールの子機から取り付いたり、かけて頂いている。手紙やはがきを書かれる方は準備をし、郵便局に持参している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節感が感じられるかざり付けを行っている。(クリスマス、正月飾りなど)。玄関には季節の花を飾ったり、雛飾りなどを飾っている。室内の温度調整や外気の騒音などないよう気を付けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブル席は仲の良い方どうしが隣同士になるよう席を決めさせて頂いている。テラスから公園の風景が眺められる様、ソファを置きいつでも座って頂き、外の景色がよく見える様に設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時その方の愛用品などご本人や家族さんと相談して、持ち込んで頂いている。各部屋にカレンダーを貼り、毎日の日付けが確認ができるようにしている。入り口には名前と似顔絵を貼らせて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	習字用のテーブルを準備させて頂いている。卓球の好きな方には卓球台を用意させて頂いている。歌が好きな方にはカラオケで唄って頂いている。パズルの好きな方にはパズルを準備したり、読書の好きな方には、本を準備したりしている。		